

2019年度大学入試 受験生の傾向 ～高校教員アンケート結果より～

河合塾

2019/1/11

河合塾では進路担当の高等学校教員を対象に、今年の受験生の志望校や進路選択における傾向についてアンケート調査を実施した。下記にその結果をまとめた。

■強まる安全志向、推薦・AO入試を積極的に利用したい受験生は増加傾向

河合塾では、昨年10月下旬から12月中旬にかけて、進路指導に携わる高等学校の教員を対象に、入試分析報告会を実施した。そのうち全国60会場で、受験生の進路選択の意識変化についてアンケート調査（文末※参照）を行った。

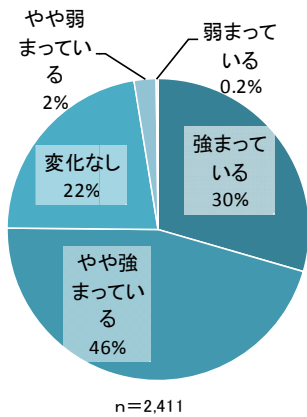
＜グラフ1＞は今年の受験生の志望校選定に関する傾向などについて質問した結果である。

「①推薦・AO入試を積極的に利用したがる傾向」は、「強まっている」「やや強まっている」を合わせた「強まる」傾向が全体の76%を占め、昨年度の同アンケートから10%上昇した。近年、都市部の大規模私大を中心に入学定員超過抑制のために合格者数を減らす動きがみられ、私立大入試は難化し厳しい状況が続いてきた。こうした状況を踏まえて、推薦・AO入試を利用して早期に進学先を決定したいという受験生の志向がより一層強まっている様子が見えてくる。

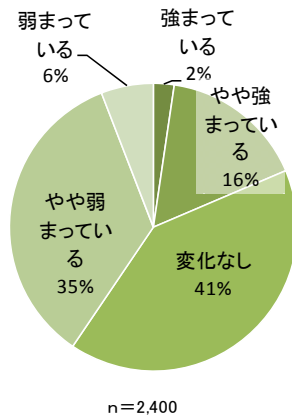
「②チャレンジ志向（目標を高く設定する傾向）」では、「弱まっている」「やや弱まっている」を合わせた「弱まる」傾向が4割を占めた。昨年度の同アンケートから9%上昇しており、推薦・AO入試を積極的に利用しようとする傾向が強まっているのと同様に、私立大難化の影響を受けて「無理をしない」受験生が増加しているといえるだろう。

＜グラフ1＞志望校・受験校選定における受験生の傾向について

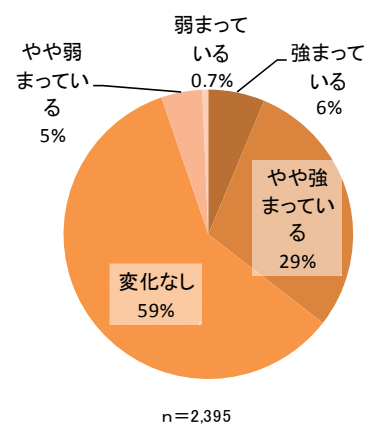
① 推薦・AO入試を積極的に利用したがる志向



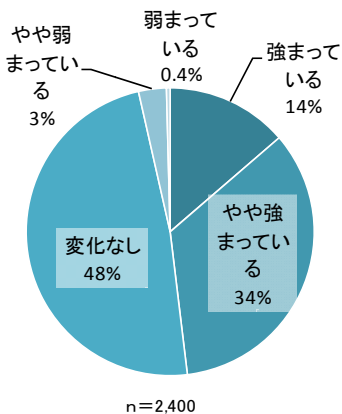
② チャレンジ志向（目標を高く設定する傾向）



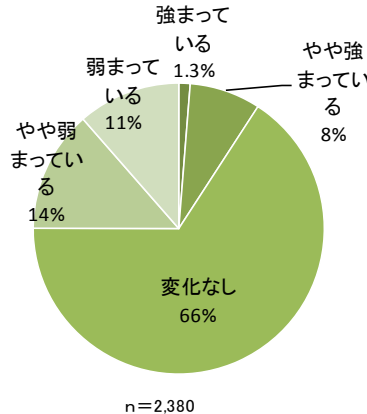
③ 就職を意識した学部系統選びをする傾向



④ 通学可能な範囲の大学を選ぶ志向



⑤ 大学・短大より専門学校を選ぶ傾向



「③就職を意識した学部系統選びをする傾向」では、「変化なし」の回答が全体の約6割を占め、最多であった。また、「強まっている」「やや強まっている」の回答は35%で、「変化なし」と合わせて9割以上となっている。近年、大卒の就職状況が改善しているとはいえ、大学進学時に就職を意識した学部選びをする傾向に変化はないと言っていいただろう。

「④通学可能な範囲の大学を選ぶ志向」では、「強まっている」「やや強まっている」を合わせた「強まる」傾向と、「変化なし」の回答がそれぞれ半数近くを占めた。全国的には通学可能な範囲の大学を選ぶ志向が強まっているといえる。地区別にみると、東海地区や近畿地区などの都市部では「強まる」傾向が5割以上を占める一方、北海道地区、東北地区、北陸地区では「強まる」傾向は4割以下に留まっており、地域によって差が大きい結果となった。

「⑤大学・短大より専門学校を選ぶ傾向」は、「変化なし」の回答が66%と、高等学校の教員が大きな変化を感じていない様子がうかがえる。また「弱まっている」「やや弱まっている」を合わせた「弱まる」傾向は、25%と前年の同アンケートから4%ダウンした。「強まっている」「やや強まっている」を合わせた「強まる」傾向の割合を大きく上回っており、短大を含めた「大学」への進学志向が強い状況がうかがえる。

■「奨学金の活用を考える生徒」の増加は約7割の先生が実感

<グラフ2>は、進路選択や奨学金の活用についてである。

「⑥進路選択・決定における保護者の意向」は「変化なし」が半数を超えた。「強まっている」「やや強まっている」を合わせた「強まる」傾向が46%となっており、「弱まっている」「やや弱まっている」を合わせた「弱まる」傾向はほとんど見られない。近年この割合はほとんど変動せず、子どもの進路決定に保護者が深く関わる傾向が弱まることはなさそうである。

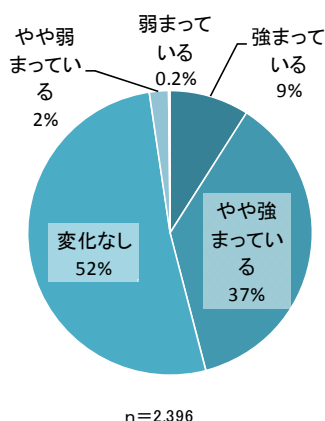
「⑦奨学金・奨学金制度の活用を考える生徒」では、「増えている」「やや増えている」「変化なし」で大半を占め、「減っている」「やや減っている」の回答はほとんど見られない。

近年、給付型奨学金の創設や大学独自の奨学金制度の導入など、奨学金を充実させる動きがあることもあり、活用を考える傾向は年々強まりを見せている。

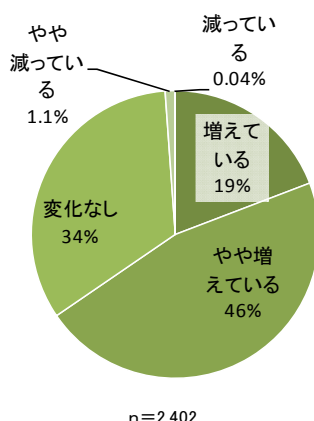
「⑧家庭の事情で大学への進学自体を見直す生徒」は「変化なし」が昨年度の同アンケートから6%上昇し、7割を超えた。一方、「増えている」「やや増えている」の「増える」傾向は昨年度の同アンケートから5%ダウンしているものの、「減っている」傾向に変化はなく、依然として経済環境の厳しさが高校生の進学に影響を与えている様子がうかがえる。

<グラフ2>就職環境・家庭環境による進路選択の変化と奨学金の活用について

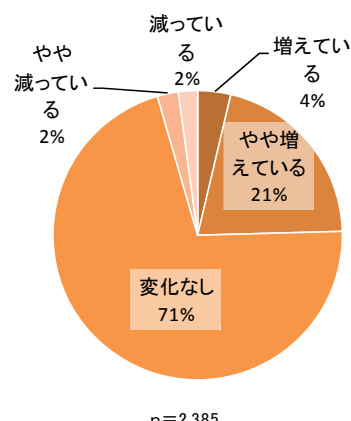
⑥進路選択・決定における保護者の意向



⑦奨学生・奨学金制度の活用を考える生徒



⑧家庭の事情で大学への進学自体を見直す生徒



※アンケート概要

実施期間：2018年10月～12月

対象：高等学校教員 回答者数：2,725名（文中のグラフはこのうち未回答者を除いて集計）